



ROTARY BRINGS HOPE

ロータリーは 希望をもたらす



国際ロータリー会長 M. A. T. カバラス 第256地区ガバナー 藤田 説量 (三条)

会長 — 日戸 平太 幹事 — 上木 六治 SAA — 外山 雅也

例会日 毎週水曜日 12:30

例会場 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 (TEL 34-3311)

事務局 三条市旭町2-5-10 (TEL 35-3477)



出席率: 会員 66名中 47名 : 先々週出席率: 89.39% (前年同期 88.57%)

今日のお花:

ヴィジター: 藤田説量ガバナー、小林栄三第四分区代理 (燕)

三条南より 大竹和男君

三条北より 米山忠俊君、原 茂之君

ゲスト:

先週のメイクアップ: 12/12 燕へ 外山一郎君、斎藤権八君、山本正夫君

12/14 三条北創立総会へ 藤田説量君、榎本 勝君、古沢富雄君、
平原信行君、岩井和夫君、伊藤広一君、木村二三郎君、
小林英雄君、小林敬典君、日戸平太君、野村竹三郎君、
大谷幸平君、鈴木宗資君、高橋清見君、滝沢富雄君、
外山雅也君、上木六治君、渡辺宏策君、渡辺惣吉君、
山本福七君、外山一郎君

12/16 三条北へ 加藤紋次郎君、松縄 弘君、岩井和夫君

会長挨拶: 日戸会長

14日(日)は北クラブの創立総会でありました。多数の会員のご出席有難うございました。鈴木さんの独得のユーモラスな挨拶を始めとして、藤田ガバナー、橋本バスターガバナー、名誉会員の内山市長、第4分区の会長、幹事さんのご出席もありまして、盛会でありました。北クラブの新ロータリーアンと、ホストクラブの皆様と共に同慶に存じます。

12月17日の本日は、待ちに待ったガバナー公式訪問であります。ホームクラブのガバナーをホームクラブの公式訪問にお迎えするのでありますが、30年の歴史をもつわがホームクラブは始めてであります。チャーターメンバーの感慨もまたひとしおであります。

やむなく欠席中の近藤さん、広岡さんから、今朝、感激の意の電話を頂きました。極楽浄土は皆ニコニコするところでありましょう。

今回の公式訪問が嬉しいなかにも実のあるものになる事を願っているものであります。

幹事報告： 上木幹事

- ・年次大会俳句集
- ・日本支局より 情報抄録、財務報告、ローターアクトクラブ半期報告書、次年度公式名簿
記載資料報告用紙
- ・太田ロータリークラブより 創立30周年記念式典の御案内
3月8日(日) おおた平安閣

ニコニコBOX ￥21,000

藤田説量ガバナー 公式訪問

燕RC 小林栄三分区代理



藤田ガバナーより多額の御注文並びに御指導頂きました。御礼に。

中條君 三条北ロータリークラブ創立総会12月14日、藤田ガバナーご出席のもとに御陰様で無事終了致しました。

鈴木君 藤田ガバナーを歓迎して。

渡辺(宏)君 公式訪問を御無事で終らんとする藤田ガバナーに敬意を表して。

五十嵐(総)君 藤田ガバナーをお迎えして。

加藤君 藤田ガバナーをお迎えして。

藤田ガバナー公式訪問 記念講演



ロータリークラブは何が良いかと云えば、私はクラブに於て人生を学ぶことが出来るとお話をして参りました。我々が人生を学びますには、第一にその家庭に於て父や母の色々な躰、人間的な生き方の姿を家庭の中で学ぶわけでございます。今朝もテレビで中国の孤児達が父や母を求めて、日本に来たあの姿を見まして、私はかつて京都に居りました時に中国の名筆の3人の中の1人と云われた方(チョウ ボクショウさん)ですが、その

方に仏教大学でお目に掛かりました際に私に次の挨拶をしました。「日本の残された子供達を今日までお育て戴きましたことに就て厚くお礼を申し上げるものです。若し今、日本に残された孤児達が日本の家庭に育てられたならば、あの様に父や母を求める人格のものとして育ったかどうか分らないと思います。」と私はご挨拶でお礼を申し上げたのであります。

そういう人間が育って行きます上に、人間の生き方というものは家庭の中で先ず育まれるものです。そして社会に出て社会の中で色々な社会性の勉強を致します。そういう意味でロータリークラブに入りましてきちりと育てられた立派な方々は、小さい時から躰をされ育って来られた姿に接しまして、お食事を共に致しお話を致します。箸の持ち方、食事の姿そのものも勉強であり、その方の姿勢もお話の時の声の出し方や話し振り、これも私は人生を学ぶ大変な勉強になったものだと感じております。そういう私がこのクラブに学びまして会得致しましたものを、講演をしクラブ協議会に於てお話をするものでございます。

社会に出まして色々な知識知恵というものが湧いて参ります。知識という言葉と知恵という言葉とは皆様ご存知のように意味合いが違います。英語でもノオレットとウイズダムと云う言葉が有る様ですが、東洋の知恵という言葉には非常に複雑ないくつかの段階的な意味合いがある様です。本当の知恵は知識を如何に活かすかということで、人間が人間の世界に於て、お互いの活かし方をどう考えるかということ、心付いて実行した時に本当にそれが知恵であると私は感じております。最初の知識は自分を活かすことだけに使われますけれど、本当の人間の知恵の値打の有る処は、自分を活かし、他を活かし、お互いに活かしあう、そういう働きを考える処に人間らしい値打といえますか、そういうものが出て参ると考えております。ロータリークラブで学びましたものは知識を越えた知恵である。人々の色々なフィージング感触そういうものの中から、私は人間の生き方というものを学んで参りました。それは私に与えられた知恵であったと心から感謝をしておるものであります。

私は公式訪問で人間が三遍生まれ変わるという話を申し上げております。若い時代に学校で余り良い評価を与えられなかった者、生徒同志でも余り認められなかった若者が、社会に出てから非常に悠々と能力を発揮して自分の職業を伸ばし、或は就職をしている会社に貢献しておるという姿を見ることが出来るのであります。学校時代の成績を一生引きずって廻るものには無いということです。若気の至りで色々なことを致します。後から思い返して赤い顔をせざるを得ない。またワーと叫ばなければその場が凌げない様な苦い思い出もあるものですが、それは一生引きずって行くものではない。或る時点に或る意識を心付いて何かの仕事をするに依って、自己能力を発揮することが出来た時にその人は生まれ変わるのだと考えております。若い時代の人格というものは良い意味で信用が出来ない。学校時代の彼等から想像することの出来ない生まれ変わりをしておる者が沢山おるのであります。そういう生まれ変わりを出来るということが人生の明るさであろうと思います。

そして40を過ぎてから生まれ変わることが出来ます。私の先生の実例であります。東大の倫理学和辻哲郎先生のお弟子で大変優秀な成績で学校を出られ、私共の講師として教えて戴きました。私はその先生に大変お世話になりまして、主にドイツ語の一对一のゼミナールで、ド

ドイツ語のDの字も知らない私が習う訳ですので、先生も大変ご苦勞であったと思います。その先生が大変弱い先生で、青白い瘦たインテリの悩みを絵で画いた様なそういう先生でした。昭和13～4年頃、当時の大学の授業は2時半を過ぎますとスチームが抜かれて非常に寒くなり、ゼミナールは大体3時限から4・5時限位にかけてやりますので教室が寒いので、先生、今日は止めてドイツの映画が掛かっていますから、勉強の替りに見に行きましょう。



また冬は、スキヤキ屋へ行って授業はそこでやりましょうと云ったり、私が引越をしますと先生は一々点検に来てくれましたりして大変にお世話になった先生ですが、何としても先生の弱さというものが私達の気持ちから拭い去ることが出来なかったのです。終戦後昭和42年頃であったと思いますが、或る会場で私が30分の話を受け持ち、先生が帰朝講演をされるといふ会で戦後初めてお目にかかりました。私が汽車の時間の都合で先生より遅れて入りまして、友達に先生がお待ちだよと云われて、室に行ってお挨拶を致しました。その時の先生は私が学生時代にお世話になった先生とは別人の様な先生でした。実に脹よかに肥えられて、体格も立派、貫禄があって押し出しがあり、堂々とした先生として座っておられた。後の帰朝講演も減張のきいた立派な指導講演でありました。私はその時に人生の楽しさを教えられたのです。人間が40を過ぎてからかくも見事に生まれ変わることが出来る。なんと楽しいものだ。人それぞれ歴史があります。しかしその歴史がそのままの延長であることが殆んどでありますけれど、しかし、何かの生まれ変わりのポイントを掴んで努力をしたら、先生程ではなくとも万分の一生まれ変わりが出来ると教えられたのであります。誠にすさまじい生まれ変わりで讀と云う言葉がありますし、先達と云う言葉があります。蟬が殻を脱ぐと云う言葉があります。そういう生優しい生まれ変わりではなくて、私にすれば先生の生まれ変わりというものは、ミミズがドラゴンに生まれ変わった様な驚きでした。人が40を過ぎてからこの様な見事な生まれ変わりを出来るという人生の楽しさを教えられました。

そしてもう一つは、人間は人生の終わりに於て65～70を過ぎてから、社会的に或る一つの自分の責任を果す、或は家庭的に一つの仕事を成し終えた時点に於て、この世の中にどういふ足跡を残すことが出来たかということを考える時に、自分がこの世の中に生まれて来た使命感というものを考えた時に、人間というものは生まれ変わることが出来るし、生まれ変わる可きものであらうと考えます。

人生の目標というものが財産を造ることも家を建てることも位で自身を極めることも人生の目標であります。私はそういう目標に依って自分が励まされ努力を致して進むことが出来るものだと考えておりますけれど、果して人間の目標はそういう自己愛の結晶だけが人世の目標であるかと云うと、私はそれは少し違ふと思うのであります。今の日本の社会情勢の中で金を蓄めるとか、立派な家を作るとかいう自己愛の結果についての評価は大変高いものがありますけれども、人間が人間らしく生きたということの評価は誠に低いということが私は

残念なのであります。人間というものは競争のある世界が健全なのであります。競争することによって人間が励まされ刺激されて前へ進んで参ります。然しその競争だけが人間の世界ではない。競争のない世界が健全でない以上に不健全な世界がある。それは他を顧みる心のない世界だと私は申しております。人類は何億年の歴史があるか私は分りませんが、人間が生まれて来て命を受け継いで次から次へと世代を重ねて参っておりますが、その中に流れた或るものが何であるかという事を考えた時、やはり人間は人間らしい幸せというものを、人間らしい明るさと云うものを求めたに違いない。それを私達は受け継いでいるはずであります。そういうものに答える何か、動物でない何かを、我々がやる事が出来るか、出来たか、そして次に残す事が出来るかということ考えた時に人間は最後の生まれ変わりをもう一度やる可きであらう。西郷南洲が皆様ご存知のように、子孫の為に美田を刈らないという言葉がどういう意味か、それは西郷南洲の気持ちが詩の中に謳われております様に、丈夫は玉砕するとも彼等に全く姿を望む可きものではない。彼等の援軍は人が知っておるかどうかわからないけれど、子孫の為に美田は刈らないという意味の遺訓だと思います。刈る可き美田よりも最っと立派な人間らしい男らしい、そういう生き方を示すことが大切だと教えておるものと私は受け止めております。財産よりも、もっと大切なことは人間が人間らしい生き方を残すことが大切なので、動物でない人間の世界に何が必要であるか、私はこういう話を縷々申し上げますことは、人間が生まれ変わるとか、知恵を人間らしい知恵として身に付けて行く為には、二つの心掛けが必要であることを申し上げたいからであります。その一つは自立する心であります。自ら立すると私は書いておりますけれど、自分が自分を最も自分らしくこの世の中に生き抜く為に私のリズム感をもっております。そのリズム感は何処から産まれるかという、こういうことはやっはいけない、こういうことはやる可きであるというリズム感であります。法律とか戒律とかいう言葉が人を縛り付ける約束事の様に理解をされておりますけれど、本来の戒律の意味はその掟を守ることによって最も私が全能力を発揮する姿勢を教えるという積極的な戒めであります。これはやる可きである、これは絶対やっはいけない、この人生の生き方を一段と大きく高くし、知恵を使い乍ら、私は私のリズム感を持って生きて参ります。それだけで良いかという、そうではない。もう一つの応答する心というものが必要です。応答とは応用の応と答えると書いております。社会に働きかけ呼びかけ、その結果帰ってくる手答えによって私は私を知ることが出来るのであります。私自身は自分を見ている認識して自分を一番良く知っている様でいて、案外的はずれです。自惚れがありまして、欲望がありまして、物を見る目の誤りがあります。しかし私が働き掛けに依って帰ってくる手答と云うものは、はっきりと私の位置を示してくれておるのであります。他からの答えによって私は私を知ることが出来、他に呼び掛ける働きの帰って来る手答えによって私は自分を認識し位置付をし、その手答えによって私のリズム感と云うものが軌道修整されて大きくなって行くことが出来るもので、そういう基本的な働きがあって初めて人間というものが生まれ変わることも出来るし、前へ伸びることも出来る。40代の生まれ変わりを示された先生は大変な苦行をされまして、ドクターストップが掛かり貴方はこれを続けたら絶対に命はありませんよと云われた方が、その難しい行を悠然とチ

チャレンジして生まれ変わられたということも承りました。決して生や愚で生まれ変わるものではないけれど、その生まれ変わる基本的なものは何かと云えば、自立する心と応答する心だと私は考えております。

ロータリークラブは皆様ご存知の様に自らの繁栄、自らの職業の繁栄と、社会に奉仕をするという二つの心掛けを柱として今日まで伸びて参りました。百万を越えるメンバーを擁する大きな国際的な会として、なぜ伸びたか、二つの心掛けが基本にあったからだとは私と考えます。競争することがない。そういう社会は先程も申し上げました様に健全な社会ではない。働く者も働かない者も同じように評価をして、年功序列で給料を貰おうとする様な風潮が、今の世の中に生き抜くことは出来ない現在の社会状況がはっきりと示しておるものであります。然し競争する心がありましても社会に対して働きかけ、他を顧みる心を養うという心掛けがなければその人格というものは健全な人格ではない。当初申し上げました様に人間の知恵の最たるものは、他を活かし、自らを活かし、その相関関係の中に社会を構成して行くということが一番奥の深いレベルの高い知恵であることと云うことを色々な処で教えております。それは一遍にレベルの高さを望む可きではありません。自らの努力によって自らの積み上げに依って、その高い知恵と云うものが磨かれて行くものだと考えております。陶淵明の詩に今是にして昨非を悟ると云う言葉があります。今自分が或る地点に達しなければ昨日までの過を悟ることが出来ない。自らを高めなければ自分の反省というものは本当に身に着かないという意味だと思えます。そういう基本的な人間の生きる姿の大切なことをロータリーは提唱し教えて来た訳であります。自らの職業の繁栄、社会に奉仕する手答えによって、また自分の職業の軌道修整をしながら、自らを高め、自分の職業を高めて行くということが出来まます。今迄のロータリーの云う社会奉仕というのは、自分の生活地域に対する社会奉仕であり、国に対する忠誠というものを主眼として参りました。3H計画で幾らかグローバルな動きはしては居りましたが、今後のポリオプラス計画程の大きな動きは示しては居ません。日本のロータリーアンが提唱しましたかつての2・3の3・4と云う規程があります。今の手続要覧には載って居ませんが、古い手続要覧に載っております。これは未だ廃棄されて居ません。そこにははっきりと金を集める様なことは余り望ましくないとか、或は年次を重ねて計画をすることは余り好ましくないとか色々な事が謳われて居るはずであります。この事を乗り越えて今5年計画で1億2千弗の金を集めて世界中の子供の命を救おうではないかという動き、これはユニセフに対して金銭的な面で協力し薬を直接低開発国の子供達に飲ませるボランティア活動のロータリーの動きであります。今迄のロータリーは世界の平和の為にと云うことを常に口に致しましたけれど、ではどう云う具体的な事で世界の平和の為に努力をして居るかという事を反論された時に答えることが出来なかったものであります。今世界的な視野で人種を越えて、宗教を越えて、国境を越えて世界中の子供達にこの薬を与えて救われる可き命を救って上げようという大きなプロジェクトであります。それぞれの国の利害得失があり争いの種になって居ります。そういうものを越えた動きをする、そこに初めてロータリーが世界の平和を希うということを実地に示すことが出来ると私は考えて居るものであり

ます。

なぜそんなことを今言い出したのか、私はロータリーが世界の平和の為にという実践をするということは、すべての人類が生存する共存することが出来る世界を形造ることが本当の希望であり、我々が社会活動をし、奉仕活動をし、ロータリー活動をすることが希望につながるという所以はグローバルな視野で、今この事をやると云うことに依って実施され、世界の平和を招来する努力をしているという実例を示すことが出来る。私は心の問題が常に説かれて居ります。今、心の問題さえ言えば政治家も当選しますし、その人は立派な人だと云われる時代になって居ります。心の問題は常に具体的な動きがあって始めて心の問題というものには値打ちが出てくるのであります。心の問題は説くだけでは値打ちがない。それを具体的にいかにか表現するかという実行動がある初めて説得性が出て参ります。

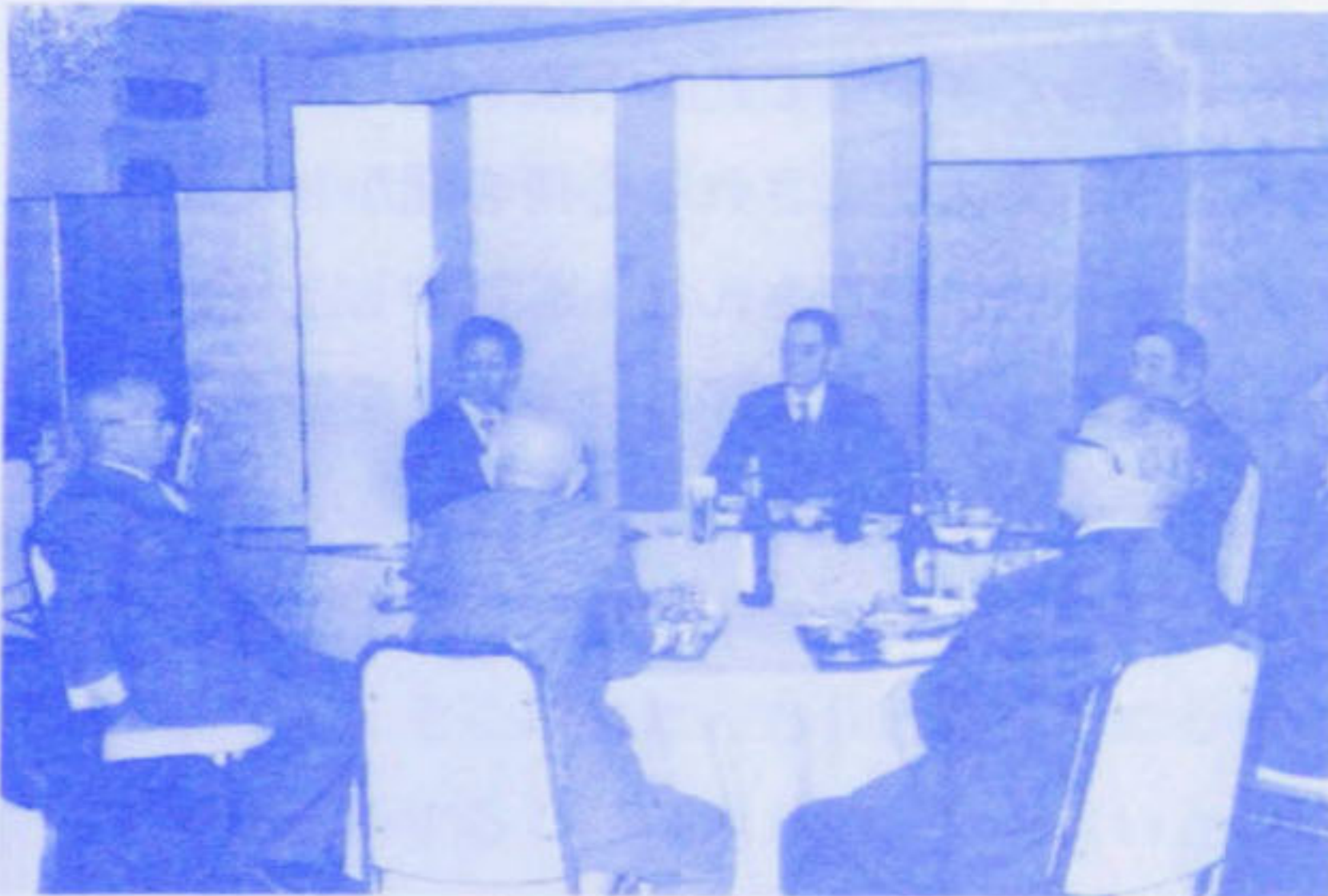
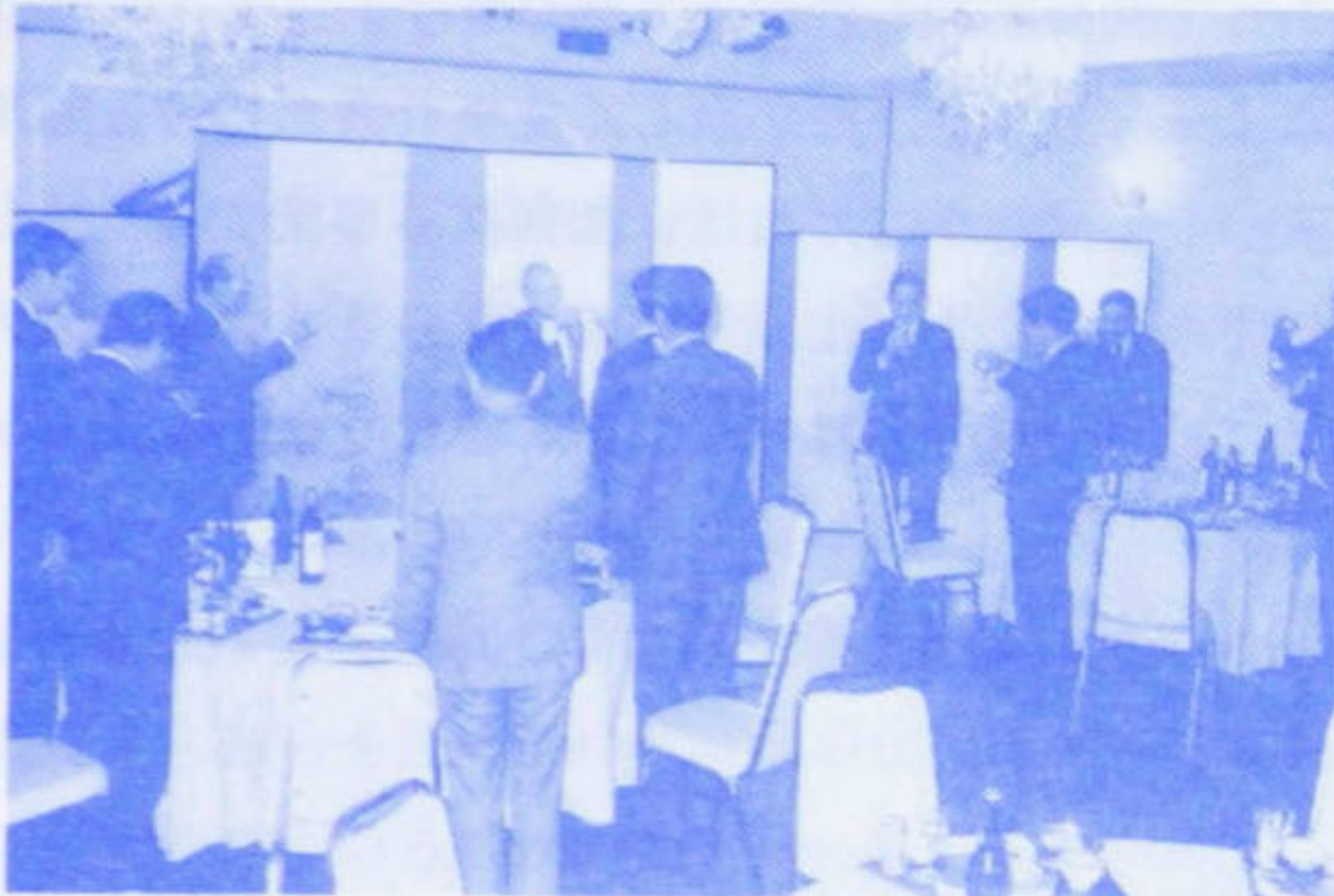
今ポリオプラス計画によってロータリーが新しく生まれ変わろうとしている。新しい時代に対処し、新しい生まれ変わりの発想がなければ、如何なる事業でありましようとも、クラブでありましようとも、明日生き残ることは出来ないものであります。私の友人がコンピューター名人でこのままでは50年後にはロータリーは無くなることになることとコンピューターで予測されたのであります。

新しい時代に対処することで高齢者問題、青少年、増強、それにポリオプラスが課せられた今後の行動目標であります。

日戸会長

藤田ガバナーから長時間にわたり、ご指導を頂き有難うございました。万象を鋭くご覧になりながらも、人間をこよなく愛し、出会いを、触れ合う心を大切にされる心情を聞かせて頂きました。日本の心、文化の原点でもありましようか。小林分区代理さんにもお礼申し上げます。後、4つのクラブの公式訪問を残しておいでですが、これも立派に完了されることを祈念致しまして、お礼の言葉にいたします。





次週例会 12月24日 卓話 広瀬昌寿君

次々週例会 12月31日
